

# 魚津市公共施設等総合管理計画

## 個別施設計画

I 公共施設

H その他

その他の施設

(資源広場)

令和5年3月改訂

魚 津 市

(所管部署：生活環境課)

# 目 次

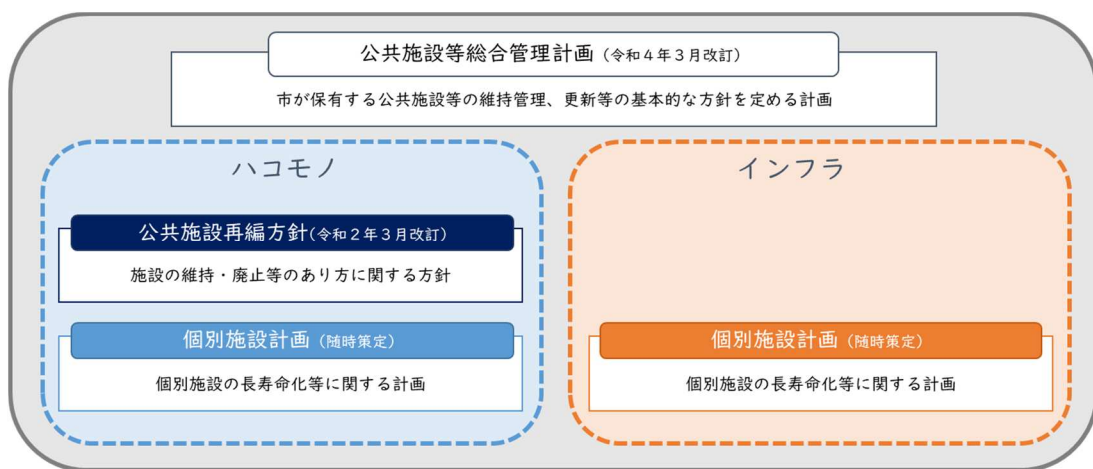
1	個別施設計画策定の趣旨及び概要	
1. 1	策定の趣旨	P 1
1. 2	対象施設	P 1
1. 3	計画期間	P 1
1. 4	進行管理	P 1
2	施設の状況	
2. 1	老朽化の状況及び改修状況	P 2
2. 2	位置図	P 3
2. 3	施設の利用状況及び収支の状況	P 4
3	個別施設の方針	
3. 1	施設の役割	P 5
3. 2	現状と課題	P 5
3. 3	今後の考え方	P 6
3. 4	対策内容と実施時期	P 7
3. 5	対策費用	P 7

## 1 個別施設計画策定の趣旨及び概要

### 1. 1 策定の趣旨

本計画は、魚津市公共施設等総合管理計画（令和4年3月改訂版。以下、「管理計画」という。）に基づき、施設類型ごとの具体的な方針や長寿命化計画などを示すものです。

#### 魚津市における公共施設等総合管理の概念図



### 1. 2 対象施設

対象施設は、管理計画における「資源広場」の施設類型の全施設とします。

### 1. 3 計画期間

計画期間は、20年間とします。

### 1. 4 進行管理

本計画に基づく進捗確認を毎年度行い、達成状況や財政状況などを踏まえて対策内容と実施時期を見直すことにより、計画的な改修等に努めます。

## 2 施設の状況

### 2.1 老朽化の状況及び改修状況

No	施設名称	建設年度	経過年数	構造 / 階層	延床面積 (㎡)	敷地面積 (うち借地) (㎡)	資産老朽化比率	劣化状況	改修状況			
									耐震化改修	長寿命化改修		
										屋根	外壁	他
1	資源広場	大町資源広場	H15	18	W/1	57.97	112	100.0%	対象外			
2		駅前資源広場	H15	18	軽量S/1	63.77	457	77.8%				
3		経田資源広場	H17	16	軽量S/1	63.33	63	69.2%				
4		加積資源広場	H25	7	軽量S/1	61.60	798	61.6%				
	合計					246.67	1,430					

※ 経過年数・資産老朽化比率等は、令和3年度末時点

## 2. 2 位置図



## 2. 3 施設の利用状況及び収支の状況

No	施設名称	利用状況（人）			収支（千円）											
		R1	R2	R3	R1				R2				R3			
					収入	支出	収支	【参考】 減価償却費	収入	支出	収支	【参考】 減価償却費	収入	支出	収支	【参考】 減価償却費
1	大町資源広場				0	967	▲ 967	0	0	1017	▲ 1017	0	0	1026	▲ 1026	0
2	駅前資源広場				0	967	▲ 967	149	0	991	▲ 991	149	0	1027	▲ 1027	149
3	経田資源広場				0	967	▲ 967	169	0	992	▲ 992	169	0	1074	▲ 1074	169
4	加積資源広場				0	968	▲ 968	161	0	992	▲ 992	161	0	1084	▲ 1084	161
	合計				0	3,869	▲ 3,869	479	0	3,992	▲ 3,992	479	0	4,211	▲ 4,211	479

### 3 個別施設の方針

#### 3.1 施設の役割

---

資源物の持ち込みにおいて地区指定の資源物ステーションと異なり、開設日・開設時間内であればいつでも持込が可能な施設です。

#### 3.2 現状と課題

---

現在は市内に6カ所設置され、うち4カ所が市直営で、2カ所が民間に委託しております。今後も資源リサイクルの意識向上による利用の増加が見込まれるため、施設を維持していく必要があります。

#### 3.3 今後の考え方

---

##### ①対策の優先順位の考え方

基本的には、建築年度又は長寿命化改修実施年度からの経過年数が大きい施設から優先的に対策を実施するものとしますが、点検結果や施設の利用状況等の要因により実施時期が前後する場合があります。

また、市の財政状況を見ながら、対策に係る経費が平準化されるよう、計画的に対策を実施するものとします。

##### ②保有総量の抑制について

社会情勢の変化をふまえ、サービス水準を出来る限り維持しながら公共施設の総量を抑制するため、施設の維持更新にあたり、機能集約や複合化を検討します。

##### ③施設の長寿命化について

施設の長寿命化を図るため、事後保全的な維持管理から予防保全的な維持管理に転換します。

施設の目標使用年数を60年以上とし、施設の長寿命化改修は建築年度から20年及び40年を経過する年度から5年以内を目途に実施するものとします。

#### ④社会的なニーズへの対応について

施設の長寿命化改修に併せ、バリアフリー化、ユニバーサルデザイン化、施設の脱炭素化等に係る改修を実施するものとします。

ただし、経費の平準化や社会的要請の高まり等の要因により個別に対応を実施する場合があります。



### 3. 4 対策内容と実施時期

No	施設名称	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17	R18	R19	R20	R21	R22	R23	R24
1	大町資源広場	長寿命化により使用期間を延伸																			
2	駅前資源広場	適切な維持管理・改修等を実施し、長寿命化を図る <sup>②④</sup>		長寿命化により使用期間を延伸																	
3	経田資源広場	適切な維持管理・改修等を実施し、長寿命化を図る			②④ 長寿命化により使用期間を延伸																
4	加積資源広場	適切な維持管理・改修等を実施し、長寿命化を図る															②④ 長寿命化				

※ ②④は、減価償却資産の耐用年数（資源広場（軽量鉄骨造）は、24年。大町は、木造のため15年。）を表しています。

※ 本計画は、適切な長寿命化改修を実施することにより、減価償却資産の耐用年数を超えて施設を利用することを目指すものですが、老朽化度調査等の結果を基に、長寿命化改修の実施有無や利用期間などが変更となる可能性があります。

※ 本計画における長寿命化改修や建替え等については、市の財政状況を見ながら、対策に係る経費が平準化されるよう、計画的に対策を実施するものとします。

### 3. 5 対策費用

計画期間における概算費用は、「資源広場」の施設類型全体で約3千万円です。ただし、現在の市の財政状況では全ての対策を実施することは困難なため、市の公共施設全体で統廃合や複合化を更に推進し、総量縮減を図る必要があります。